

ビワ生育情報

千葉県
平成25年7月号

最近1年間の気象及びビワの生育状況

平成24年7月から平成25年6月までの月別の気象は表1に示した。月平均気温は平成24年7～10月は平年並みか上回り、平成24年11月～平成25年2月は平年を下回った。平成25年3、4月は平年を上回り、5、6月は平年並みであった。この1年間の平均気温は15.7℃で平年をやや上回ったが、寒暖の差が激しい年であった。

本年産のビワの生育状況を振り返ると、平成24年の梅雨明けは、7月25日で平年より4日遅かった。梅雨明け後から夏の間は平年より高く推移した。花房の着生率は平年より高かった。花房の出蕾は3品種共にやや遅かった。関東に接近した台風は6個あったが、大きな被害はなかった。冬の訪れはやや早く、開花の進みは3品種共に遅かった。冬は厳しい寒さが少なく(最低気温-3℃以下の日が2日)、寒害の被害は平年より少なかった。果実の生育は、11～2月の低温の影響で平年より遅れたが、3月以降の高温で進み、最終的には収穫期は平年並みか2～3日遅れた程度であった。

表1 平成24年7月～平成25年6月の気象 (暖地園芸研究所)

年	月	気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
H24	7	24.3	24.3	25.7	104	190	100	198	175	193
	8	26.6	25.9	25.9	13	144	57	257	220	234
	9	24.2	22.8	24.0	197	247	148	188	146	207
	10	18.3	17.9	18.3	301	253	324	165	137	139
	11	12.7	13.2	14.5	229	148	153	156	144	207
	12	7.4	8.5	7.1	148	87	153	164	166	160
H25	1	5.0	5.9	4.4	75	91	54	156	169	114
	2	5.7	6.3	5.2	147	92	161	133	151	122
	3	11.8	9.1	9.1	69	182	200	189	154	156
	4	14.3	13.8	13.4	225	170	210	201	166	171
	5	17.7	17.8	18.1	109	176	168	221	186	211
	6	20.8	20.7	19.7	243	245	196	111	135	125
平均/計		15.7	15.5	15.5	1,860	2,025	1,924	2,139	1,949	1,961

平年：1968～2012年の平均

本年度産果実の特徴

1. 熟期

収穫期は表2に示した。暖地園芸研究所における収穫始期、盛期及び終期はそれぞれ、「楠」が5月31日、6月4日、7日、「大房」が6月6日、10日、12日、「田中」が6月13日、16日、18日で、「楠」及び「田中」は平年並みで、「大房」は平年よりやや遅れた。冬期の低温の影響で開花が遅れたが、3月以降は天候に恵まれたため、幼果の生育は急速に進み、果実が十分に肥大する前に着色が進んだ。また、収穫期直前に降雨が集中した影響で、生理落果が多く見られ、収穫期間は短かった。

表2 収穫期 (暖地園芸研究所)

品 種	収穫始期(月.日)			収穫盛期(月.日)			収穫終期(月.日)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	5.31	5.30	5.31	6.4	6.3	6.5	6.7	6.8	6.8
大房	6.6	6.3	6.8	6.10	6.8	6.11	6.12	6.12	6.13
田中	6.13	6.12	6.12	6.16	6.17	6.16	6.18	6.22	6.20

平年：1983～2012年の平均

2. 果実の大きさ及び収穫量

収穫果実の大きさは表3に示した。果重は「楠」が50g、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ69g、68gであった。3品種共に平年より小さく、特に「大房」は、暖地園研では平年並みであったが、青木、南無谷地区では平年を15～24%下回った。種子数が少ない果実が多く見られ、冬期の低温による受粉不良の影響が大きいと思われた。

横径は「楠」が4.7cm、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるといずれも4.9cmであった。「楠」は平年を上回り、「大房」及び「田中」は平年を下回った。縦径は「楠」が4.3cm、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ5.1cm、5.2cmであり、3

品種共に平年を下回った。

果形指数は「楠」が1.08、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ0.97、0.93であった。「楠」は平年を上回り、「大房」及び「田中」は平年並みだった。「楠」は横長の果形で、「大房」及び「田中」はやや丸みを帯びた果形であった。

本年の着花房率は平年より高く、寒害の被害が少なかったため、最終的な着果量は、3品種共に平年より多かったが、春先の強風による風擦れ、がんしゅ病の発生が多かった園では、収量は平年より著しく減少した。

3. 糖度及び酸度

果実の糖度及び酸度は表3に示した。糖度は「楠」が12.8、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ10.9、10.8であった。「楠」は平年より高かったが、「大房」及び「田中」は平年並みだった。

酸度は「楠」が0.11、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ0.17、0.32で、「楠」は平年より低く、「大房」は平年並みで、「田中」は平年よりわずかに高かった。

4. 食味

果実硬度及び糖酸比は表3に示した。果実硬度は「楠」が0.47、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ0.52、0.51であった。3品種共に平年より軟らかかった。

糖酸比は「楠」が115、「大房」が77、「田中」が37であり、特に「楠」は高糖度、低酸で、果肉も軟らかかったため、濃厚な味であった。

5. 病害虫及び生理障害の発生

本年は果樹カメムシのフェロモントラップ誘殺数が平年より少なく、産地における発生量は平年より少なかった。クワゴマダラヒトリの食害は平年よりやや多かった。生理障害では、裂果の発生がやや多かったが、そばかす、日焼け、紫斑等の発生は平年並みであった。病害では、がんしゅ病の発生が多く見られた。

表3 果実の大きさ及び品質

品種	調査地	果重(g)		横径(cm)		縦径(cm)		果形指数		糖度(Brix)		酸度(g)		硬度(kg)		糖酸比	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
楠	暖地園研	50	53	4.7	4.5	4.3	4.8	1.08	0.96	12.8	11.9	0.11	0.18	0.47	0.54	115	65
	青木	62	81	4.8	5.3	4.8	5.4	1.00	0.99	11.3	10.4	0.10	0.15	0.51	0.58	112	68
大房	南無谷	66	78	4.9	5.2	5.1	5.3	0.96	0.98	10.4	10.5	0.26	0.17	0.53	0.58	41	61
	暖地園研	79	80	5.2	5.3	5.4	5.4	0.96	0.98	11.1	11.1	0.14	0.20	0.53	0.59	79	56
	平均	69	80	4.9	5.3	5.1	5.4	0.97	0.98	10.9	10.6	0.17	0.17	0.52	0.58	77	62
田中	青木	65	75	4.8	5.0	5.1	5.4	0.94	0.93	11.0	11.1	0.24	0.28	0.51	0.57	46	41
	南無谷	67	73	4.8	5.0	5.4	5.5	0.90	0.90	9.6	10.0	0.42	0.31	0.53	0.58	23	32
	暖地園研	73	78	5.0	5.1	5.2	5.5	0.97	0.93	11.9	11.1	0.29	0.32	0.50	0.58	42	34
	平均	68	75	4.9	5.0	5.2	5.5	0.93	0.92	10.8	10.7	0.32	0.30	0.51	0.58	37	36

果形指数：横径/縦径 糖度：屈折糖度計の測定値 酸度：果汁100ml中の酸含量をリンゴ酸(g)に換算した値
 硬度：果実硬度計による測定値 糖酸比：糖度/酸度
 平均：3地区の平均、平年：1983～2012年の平均(但し硬度は2000～2012年の平均)

8月～10月の作業

8月下旬から9月下旬までがせん定及び施肥の適期となる。9月中旬頃には花芽の確認ができるようになる。10月に入ると花芽の発育が進み、花房の形を表し、10月上中旬には摘房・摘らいの作業が始まる。

せん定

8月下旬から9月中旬に行う。徒長枝や混んでいる枝を間引いて、樹冠内部に光が入るようにする。作業の効率化を図るため、二段盃状形の樹形を目指し、低樹高化に努める。

施肥

9月に基肥を施用して花房の伸長、充実を図る。耕土の浅い園では10a当たり分量で窒素12kg、リン酸9kg、加里9kgを施用し、耕土の深い園ではそれぞれ11kg、9kg、7kgとやや少なめにする。

摘房・摘らい

摘房は発育不良の花房や混み合った花房を間引き、1樹の全枝の半数に花房を残す。摘らいは花房基部から3段目までの小花梗の中から充実した2段を残して他をかき取る。また、花房の長さが3～5cmの時に摘らいすることで、開花期間を延長させることができ、寒害の被害を受けにくくすることができる。

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 果樹・環境研究室 電話0470-22-2961】
 ※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産技術に関する情報」でもご覧いただけます。
<http://www.pref.chiba.lg.jp/nousui/nourinsuisan/nourinsuisan.html>